

留 学 報 告 書

記入日:2020年9月1日

(この報告書は、閲覧資料としてホームページに公開されます。また、学内発行の留学関連冊子や、ホームページに情報が掲載されることもありますので、ご了承下さい。なお、資料公開の際は匿名で公開します。)

所属学部／研究科・学科／専攻	理工学部機械情報工学科
留学先国	マレーシア
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: マレーシア工科院 現地言語: MJIT
留学期間	2019年9月～2020年8月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	Mechanical course <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2020年8月2日
明治大学卒業予定年	2022年4月
留 学 先 大 学 に つ い て	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:9月中旬～ 2学期:2月下旬～ 3学期: 4学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	1学年 100人程度
創立年	2010年5月

留学費用項目	現地通貨 (RM)	円	備考
授業料		0円	
宿舍費		132000円	
食費		20000円	
図書費		10000円	
学用品費		10000円	
携帯・インターネット費		7920円	
現地交通費		0円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		0円	
被服費		0円	
医療費		0円	
保険費		97610円	形態:
渡航旅費		90000円	
ビザ申請費		5000円	
雑費		0円	
その他		0円	
合計		372530円	概算額

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地:東京 目的地:クアラルンプール 経由地:	
復路 出発地:クアラルンプール 目的地:東京 経由地:	
渡航費用	
①往復チケットを購入した場合 航空会社:ANA 料金:90000 円	
②片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: 料金: 復路 航空会社: 料金: ∴合計:	
航空券購入方法	
<input checked="" type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:ANA) <input type="checkbox"/> インターネット(サイト名:) <input type="checkbox"/> その他()	
滞在形態関連	
1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)	
<input type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:) <input checked="" type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ	
2)部屋の形態	
<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 4~6 人)	
3)共有部分	
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)	
4)住居を探した方法:	
学校の近くにあった	
5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
学内の寮でももちろんいいですが、せっかくだからいっしょに現地の子やいろいろな国の人と交流を持った方がいいと思います。	
現地情報	
1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院, 学内の診療所)	
<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり(治療を受けた場所:校内のクリニック)	
2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。(例:留学先大学の相談窓口, 現地の友人等)	
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(問題の内容や相談した人等:)	
3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?	
そんなに気にはしてなかったです。いつもどおり自分がしまっている場所を覚えることが重要だと思います。	
4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)	
とてもよかったです、雨の日は少し悪くなります。	
5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)	
ATM で引き落とししていました。	
6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。	
全部現地調達できます	

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
25単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: 明治大学での GPA が足りなかったから)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input checked="" type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() ・履修の制限はありましたか? 履修登録期間は約2週間、また、履修登録は WEB ではなく、手書きです。	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Electronics	電気工学
科目設置学部・研究科	電気系
履修期間	1 学期分
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義やたまに実験もある(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 100、50 分が 1 回
担当教授	実施回により教員が異なる
授業内容	電気回路、センサに関すること
試験・課題など	1週間に1回課題があり、試験が3回に分かれる
感想を自由記入	本当に難しかった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Mathematic 2	数学
科目設置学部・研究科	機械科
履修期間	1 学期分
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 100、50 分が 1 回
担当教授	実施回により教員が異なる
授業内容	微分方程式、ラプラス変換について学びました。
試験・課題など	1週間に1回課題があり、試験が2回に分かれてる
感想を自由記入	先生がわかりやすく教えてくれました。とても楽しくできました

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Mathematic 3	数学
科目設置学部・研究科	機械科
履修期間	1 学期分
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)

授業時間数	1週間に 100、50 分が 1 回
担当教授	実施回により教員が異なる
授業内容	3次積分について学びました。
試験・課題など	1週間に1回課題があり、試験が2回に分かれてる
感想を自由記入	先生がわかりやすく教えてくれました。とても楽しくできました

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
English course		英語	
科目設置学部・研究科	機械科		
履修期間	1学期分		
単位数	2		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に 100 分が 1 回		
担当教授	実施回により教員が異なる		
授業内容	プロフェッショナルな英語を学ぶ		
試験・課題など	試験はなく、課題が毎週出ます		
感想を自由記入	先生がわかりやすく教えてくれました。とても楽しくできました		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Fundamental of electronics		基礎電気工学	
科目設置学部・研究科	機械科		
履修期間	1学期分		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に 100、50 分が 回		
担当教授	実施回により教員が異なる		
授業内容	電気回路について学びます		
試験・課題など	週1で課題、中間、期末テストあり。		
感想を自由記入	先生がわかりやすく教えてくれました。とても楽しくできました		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Malay study		マレーシア実習	
科目設置学部・研究科	総合科目		
履修期間	1学期		
単位数	2		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に 100 分が 1 回		
担当教授	Dr. Rasheed		
授業内容	世界のいろいろについて各チームによって決め、話し合う		
試験・課題など	週1で課題、試験なし		

感想を自由記入	楽しかった
---------	-------

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Manufacturing process	製造工程
科目設置学部・研究科	機械科
履修期間	1学期分
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 100、50 分が 1 回
担当教授	実施回により教員が異なる
授業内容	生産工程について学ぶ
試験・課題など	各授業毎に小テスト、課題が渡されます。試験は3回に分かれています
感想を自由記入	ロジックが多く、暗記がメインなので、僕はとても大変でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Manufacturing design	設計工学
科目設置学部・研究科	機械科
履修期間	1学期分
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 100、50 分が 1 回
担当教授	実施回により教員が異なる
授業内容	機械ごとにふさわしい設計を理論と計算によって導く
試験・課題など	各授業毎に小テスト、課題が渡されます。試験は3回に分かれています
感想を自由記入	暗記がおおいです。テストは open book 形式です

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Applied solid	材料力学
科目設置学部・研究科	機械科
履修期間	1学期分
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 100、50 分が 1 回
担当教授	実施回により教員が異なる
授業内容	ねじれ運動による圧力計算
試験・課題など	各授業毎に小テスト、課題が渡されます。試験は3回に分かれています
感想を自由記入	なかなかやりがいのある授業でした。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

あまり活用してないです。

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

とりあえず帰国してすぐ始められるように応募、面接の日程などを確認したほうがいいです。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

英語ではいろいろな言い回しがあるので、しっかりとした意味を理解することも重要ですが、ニュアンスをしっかりと捉えることが大事だと思います。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

進路に関する情報は、今後留学を考える方の情報として、本報告書の公開のみならず、国際教育センターや就職キャリア支援事務室の関連ホームページや冊子等、留学説明会において、匿名のデータとして公開することがありますので、ご了承下さい。なお、冊子やホームページに公開する前には皆さんに原稿の校正をお願いすることがありますのでご協力お願いいたします。



留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備, 試験勉強, 留学中, 留学後, 特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例: 語学試験の勉強, 選考, 出願, ビザ申請・取得, 航空券購入, 予防接種, 滞在先の確保, 留学中の中間試験, 期末試験, その他イベント等

2018年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	
2019年 1月～3月	留学についての応募、及び選考
4月～7月	語学学習、及びビザ申請
8月～9月	航空券購入、健康診断、渡航
10月～12月	留学先プログラムに沿って勉強を進めました。
2020年 1月～3月	留学先プログラムに沿って勉強を進めました。
4月～7月	留学先プログラムに沿って勉強を進めました。
8月～9月	ビザキャンセル、航空券購入、帰国。
10月～12月	

留学体験記

この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

マレーシアを留学先を選んだ理由

私は2018年春に、タイのボランティア活動に参加しました、これも明治大学主催のプログラムです。チェンマイというところに行きました。そこでは貧困に苦しむ家族や、飢餓に苦しむ子供達、学校に行ってもまともな教育を受けられない子供たちでいっぱいでした。僕たちがメインで行ったボランティア活動は、現地の小学校で1日の先生体験、また、貧困層に向けてのトイレの修繕、道路の修繕を行いました。そこで学んだのは、アジア人の頭の回転の良さです。現地の人はとてもエンジニアにそっくりな考えを持っていると思いました。例えば、最終的に成し遂げなければならないことを、僕は必要なものがなければできないと思っていましたが、現地の人たちはその”必要なもの”が買えないからその他のものを代用して最終結果に導いていました。僕は他にもいろいろな手段を知っているんじゃないかと思い、タイだけじゃなく、他のアジア圏にも行ってみたいと思いました。これが僕がマレーシアを留学先にえらんだ大きな理由です。そのあと大学のホームページを見て MJIT を見つけ真っ先に応募しました。あとはもともと長期留学をしてみたいと言う理由もあったので、いくつかの理由が合わさりました。

この経験から学んだこと ～イスラムについて～

かつてイスラム教という名はしていてもその実態を日本には想像ができませんでした。1日5回の拝礼、豚肉やアルコールなど、その他 haram に関するものは一切触れてはいけないという宗教でした。一般的に知られている、食べてはいけないものは豚ですが、その他にも、猫、犬など、まだまだ他にも禁止されている食物はあるそうです。(僕の故郷では犬も猫も食べてしまうので)。僕たちからするととても難しいかもしれないのですが、イスラム教のもとで生まれた彼らなので彼らの感覚的には僕たちの生活となんら変わりませんでした。総合的に、イスラムの風習の慣れてしまえば、僕たちの生活とあんまり違いはないと思いました。

～生活感～

日本人が日本にいて、英語勉強しなきゃなと思いは始めるのは受験勉強を始める時だと思います。ここで日本人のことを言うのはあんまりいい気持ちはしませんが、日本にいて英語に困ったことはあるかと問われた時に、僕はあんまり困ったことはありませんでした。道端で出会った外国人観光客を道案内をするだけでも片言の英語でなんとかなってしまいます。日本人の英語ができない大きな理由は日本語だけで満足して暮らしていけるからです。英語はテストだけのもの、その考えは僕にもありました。しかしいざ大学に入り、留学生との交流も多くなり、コミュニケーションが取れるかと思いきやそんなはずがありませんでした。やはり英語は身につけて損はない。日本が話せる国は1か国に対して英語が話せる国は世界各国、言葉の壁を取り払うだけでこんなのも世界が変わる、そんな考えになったのが大学2年の時でした。片言の英語から土台作りをまず初め、そのあとに映画を見ながら日常会話を少しずつ学始めました。マレーシアでの生活感と繋げると、僕のような人たちがたくさんいるということです。公用語がマレー語、第二言語が英語なので、マレーシア人にとっても英語は難しいようです。それもあって、僕が意味不明なことを言ってもしっかり理解するまでちゃんと聞いてくれます。本当に優しい人ばかりです。UTM 自体、インターナショナルの学校なのでいろいろな国からやってきます。アジア圏がメインですが、パキスタン、バングラデシュ、インドネシア、中国、またその他各国からきています。いろいろな文化が混ざっているのもとても飽きない1年にすることができました。特にマレーシアとシンガポールについては世界各国の人々が集まっている国です。イスラム教、ヒンディー教、華僑、まじり会えるはずのない人種たちがうまく溶け合ってます。food hunting にはうってつけの場所です。アラブ料理、トルコ料理、中華料理、なんでも揃っています。トイレについてはハンドティッシュを持っていた方がいいです。

マレーシア人のついでに国民性ですが、ほとんど全員がのんびり生きています。この生活感も日本人からしてみれば少し心配になることもあるかもしれませんが、それでもちゃんと働いています。それほど仲間意識が強く、同じ時間を過ごしていない同士でも信頼しています。何かできなければ責めるので

はなとできるまでみんなでなんとかしよう、といった考えがあるようです。僕に足りない能力でした。insha'allah、この言葉は、"いつ終わるかかわからないけど、必ずやり遂げる"といった、ムスリム教がよく使う言葉です。とても都合の良い言葉ですが何か成し遂げるまでひたむきに頑張っています。"仲間意識"、これはマレー人の友達を持ったらず意識するはずでず。どこへ行っても大人数で行くことが多いがよく使う言葉です。とても都合の良い言葉ですが何か成し遂げるまでひたむきに頑張っています。"仲間意識"が強いと思います。課外活動で BBQ に行った時は学部生全員、バスケットボールやバドミントンなどのスポーツをするときも 30 人は軽くなりました。外食をするときも少なくとも 10 人はいました。毎日友達に囲まれる日々を過ごしていました。

～学業について～

授業は全て英語で行われます。日本の大学と少し違うところは1クラスあたりの人数が少ないと言うところだ。質問などがあればその場で質問ができ、教授たちもとても朗らかでとても接しやすいです。授業中に課題が渡されるのが多かったです。また WhatsApp というマレーシア版 line のようなアプリがあり、そこでグループを各授業作り、そこに教授もいるので聞きたい時にいつでも聞けます(ここでは少し気を使います)。またここで試験の成績についての相談や、進路相談なども行えます。とても画期的だとは思いますが、個人的に教員側の負担がとても大きいと感じてしまいました。

～home quarantine について～

2020/03~ コロナによる強制自宅自粛が発令され、online 授業がメインになりました。生徒たちはそれぞれの故郷へ帰り、教員までもが故郷に帰りました。そこで感じたのは政府の対応の速さと市民の反応の良さ。街に出る人は2ヶ月間誰1人として見かけませんでした。もちろんキャンパスの封鎖。とてもではないが家に籠るのは耐えがたいものでした。またその期間は断食の時期。UTMは炊き出しを行い、僕たち留学生、共に muslim たちを助けました。僕が毎日のようにいていた学校、食堂、ジム、全てが close になってしまいました。約3ヶ月間、1歩として自宅から出るようなことはありませんでした。それでも同じコンドミニアムにいる友達には会うことができ、一緒にご飯を食べたり、勉強したり、有意義な時間を過ごしました。

～課外活動～

課外活動についてはその年の学級委員長によって変わります。正直僕が行った年はあんまりなかったです、2020年度の委員長には学校行事多くするように伝えてあります。僕が行った課外活動は、family day、sports day、new year party だ。ほとんど全員、学部生が参加していました。

日本と提携とっている大学なので、日本語の授業を必ず受けなくてはならず、そこで出された課題など、日本語カフェなど僕たちが助けてあげる場面も多々ありました。時にはインタビュー、時には先生の代わりに日常会話を教えてあげる場面もありました。その他の自由時間ではスポーツをしたり、外食をしてました。日本人はやはり目立つようだ。

～総合して～

また新しい発見、出会いができてとても楽しかったです。留学という経験を通し、自分らしくまた、日々の生活を自分で決められるからこそ自立できたと思いました。俗いいう、一皮剥けた、感じが実感できました。

